

平成30年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2020

甲州市教育委員会

平成30年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2020

甲州市教育委員会

序

甲州市は塩山・勝沼・大和の各地域からなりますが、それぞれが独自の歴史文化を築いてきたため、豊富な文化資源に恵まれている市です。

遺跡についても同様で、市内には勝沼氏館跡・甲斐金山遺跡（黒川金山）の二つの国指定史跡が所在し、他にも多くの遺跡が眠っています。

本書は、平成30年度に国庫補助事業として実施した、市内遺跡発掘調査等事業にかかる報告書です。30年度は7地点の遺跡について試掘調査を行っております。

今後も市内遺跡の保護保存が図られるよう、国・県のご指導もいただきながら、発掘調査事業を進めていきたいと考えておりますので、関係各位には一層のご協力をお願い申し上げます。

令和2年3月27日

甲州市教育委員会

教育長 保坂 一仁

例言

- 1 本書は、平成30年度市内遺跡発掘調査等事業にかかる実施報告書である。
- 2 事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金により行った。
- 3 事業の期間は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までである。
- 4 本書にかかる出土品、図面、写真等の記録類は、甲州市教育委員会で保管している。

凡例

- 1 本文中、各遺跡の調査地点を示した図（4ページ）は国土地理院発行の1/50,000地形図（御岳昇仙峡、丹波、都留）を改変して使用した。
- 2 縮尺、方位等は各図中に示した。方位の無いものは真上北である。出土遺物は全て1/3としている。
- 3 各遺跡の説明中にある「調査対象位置図」は、甲州市の都市計画図（1/2,500）を元に作成された「甲州市埋蔵文化財包蔵地図」を引用した。真上北で、縮尺は任意であり統一していない。

目次

序

例言・凡例・目次

第1章 遺跡の所在確認業務について	1
第2章 発掘調査等について	1
第3章 発掘調査等の概要	2
第1節 事業費	2
1 事業経費収支予算書	2
2 事業経費収支精算書	3
第2節 発掘調査等	5
1 中道遺跡	5
2 日川水制	8
3 横井・大木戸遺跡	13
4 池田遺跡	21
5 扇田B遺跡	25
6 比丘尼原387ほか	31
7 下整田遺跡	34

抄録・奥付

第1章 遺跡の所在確認業務について

平成30年度の甲州市教育委員会における文化財関係組織は、次の通りである。

保坂一仁	甲州市教育委員会教育長		
飯島 泉	教育委員会文化財課長		
小野正文	文化財課文化財指導監		
小倉 真	文化財課歴史まちづくり担当リーダー	廣瀬勝正	文化財課文化財保護担当リーダー
齊藤陽介	文化財課歴史まちづくり担当	入江俊行	文化財課文化財保護担当
前嶋康太郎	文化財課歴史まちづくり担当	廣瀬昭久	文化財課文化財保護担当
萩原麻由	文化財課歴史まちづくり担当	柳通めぐみ	文化財課文化財保護担当

開発計画に伴う遺跡の所在確認と不動産鑑定に伴う遺跡の所在確認については、30年度は305件を数えた。内訳は、開発計画に伴うもの269件、不動産鑑定に伴うもの36件であった。

第2章 発掘調査等について

遺跡の所在確認後、周知の包蔵地内において具体的な開発行為の計画がある場合について、文化財保護法第93条及び94条の届出を提出していただき、一部は甲州市教育委員会で工事立会いとし、7件については試掘調査を実施した。これらのうち横井・大木戸遺跡については令和元年度に本調査を実施している。

発掘調査等の体制は次の通りである。

発掘調査担当者 入江

発掘調査・整理作業員 雨宮久美子・栗原礼子・萩原里江子・正木なつ子・矢崎真佐美・吉原智美

第3章 発掘調査等の概要

第1節 事業費

1 事業経費収支予算書

収入の部

	金額	備考
国庫補助金	1,150,000円	補助対象経費の50%
県費補助金	575,000円	国補残の50%以内
甲州市負担金	575,000円	国・県補助残
計	2,300,000円	

支出の部

	金額	備考
報償費	0円	
旅費	0円	
賃金	1,252,000円	発掘136日×7,000円、整理50日×6,000円
需要費	400,000円	
消耗品費	27,400円	調査・整理消耗品
印刷製本費	372,600円	報告書1,150円×300冊×1.08、他写真・資料コピー等
役務費	0円	
委託料	0円	
使用料及び賃借料	648,000円	機械借上げ32,400円×20日
計	2,300,000円	

2 事業経費収支精算書

収入の部

(上段：精算額 下段：予算額)

	金額	備考
国庫補助金	1,150,000 円	補助対象経費の 50%
	1,150,000 円	
県費補助金	575,000 円	国補残の 50%以内
	575,000 円	
甲州市負担金	662,472 円	国・県補助残
	575,000 円	
計	2,387,472 円	補助対象経費
	2,300,000 円	2,300,000 円

支出の部

(上段：精算額 下段：予算額)

	金額	備考
報償費	0 円	
	0 円	
旅費	0 円	
	0 円	
賃金	1,305,500 円	発掘 63.5 日× 7,000 円、整理 143.5 日× 6,000 円
	1,252,000 円	
需要費	336,772 円	
	400,000 円	
消耗品費	28,972 円	鋤簾、ブルーシート、土のう袋、ビニール袋等
	27,400 円	
印刷製本費	307,800 円	平成 29 年度市内遺跡発掘調査等事業報告書
	372,600 円	
役務費	0 円	
	0 円	
委託料	0 円	
	0 円	
使用料及び賃借料	745,200 円	重機 (バックホー)
	648,000 円	
計	2,387,472 円	
	2,300,000 円	



1. 中道遺跡
2. 日川水制
3. 横井・大木戸遺跡
4. 池田遺跡
5. 扇田B遺跡
6. 比丘尼原387他
7. 下整田遺跡

平成30年度市内遺跡発掘調査地点

第2節 発掘調査等

1 中道遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山熊野字葎尻 152-1
- (2) 調査面積 15.2㎡
- (3) 調査期間 平成30年5月17日～21日
- (4) 調査原因 消防施設建設
- (5) 調査結果

当地は埋蔵文化財包蔵地である中道遺跡（平安）の西側に近接しており、すぐ北側には熊野神社が立地する位置関係にある。このたび当地に消防団詰所が建設されることとなり、敷地内に埋蔵文化財が存在するか確認するため、試掘調査を実施することとした。

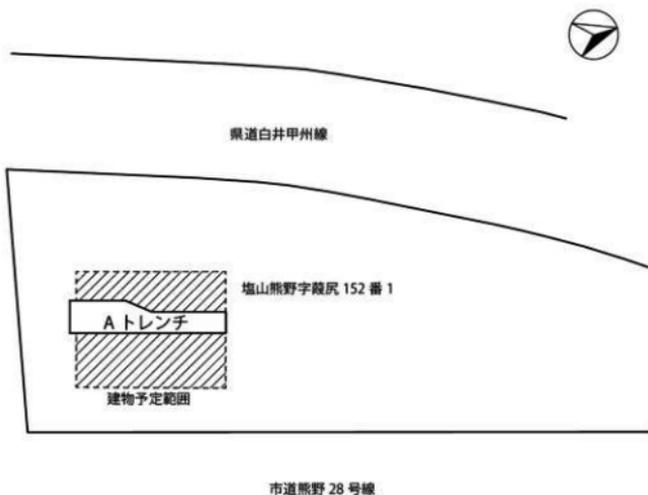
Aトレンチは長軸を南北にとり、9.5m × 1.3 ～ 2.0mの範囲で掘削を行った。地表から1.1～1.6mまで掘削を行ったが、当地は元々ガソリンスタンドが建っていたため、大半が攪乱を受けており、遺構や遺物は検出されなかった。

トレンチ内から部分的に地山を確認できた。水田の痕跡と思われる水平堆積層もあるが、出土遺物が無いため時期等の詳細は不明である。

試掘調査の結果、遺構・遺物とも検出されなかったため、工事範囲内に遺跡は存在しないと考えられる。

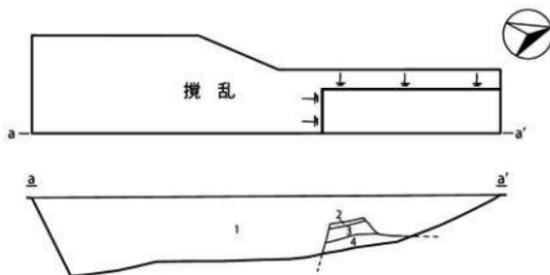


調査対象位置図



調査区位置図

0 (1:300) 5m



Aトレンチ土層

1. 灰褐色土 瓦礫・砕石を含む。攪乱。
2. 暗黄褐色粘質土 しまり、粘性強い。
3. 褐灰色粘質土 しまり、粘性強い。酸化鉄粒を少量含む。
4. 暗灰褐色粘質土 しまり、粘性強い。酸化鉄粒を少量含む。

0 (1:100) 2m

Aトレンチ平断面図



Aトレンチ全景 (北から)



Aトレンチ土層断面 (北西から)

2 日川水制

- (1) 所在地 甲州市勝沼町勝沼 2830-1 (シャトレーゼ敷地内)
- (2) 調査面積 29.2㎡
- (3) 調査期間 平成 30 年 8 月 6 日～ 31 日
- (4) 調査原因 店舗等建設
- (5) 調査結果

当地は駐車場やイベント会場として利用されているが、日川の河川敷に点在する日川水制群の近接地で、地下には水制（日川右岸 19 番堤）が存在することが予想される地点である。このたび当地内に店舗用建物敷を新たに建設する計画が立てられたが、現況の観察では水制の位置や規模を確認することができなかつたため、地下に埋没した水制の残存状況を確認する試掘調査を実施することとした。

日川水制の図面や過去の空撮写真等を参考に、右岸 19 番堤の存在が想定される範囲内で、敷地の南端（A トレンチ）、北端付近（B・C トレンチ）に 3 箇所の特長を調査した。

A トレンチは敷地の南端付近に 8.8m × 1.0m の規模で東西方向に設定した。地表から 1.2m 掘り下げたところで水制の石積みを検出した。天端幅 3.2m を測る。水制の高さおよび基底部幅は不明である。土層は上から表土、リニア残土（礫主体）、旧表土（耕作土）が堆積しており、水制は耕作土中に埋没していた。リニア残土はリニア工事に伴って発生した残土（礫主体）のことで、この敷地全体に施されている。

B トレンチは A トレンチの北方 110m 付近に 10.5m × 0.9m の規模で東西方向に設定した。地表から 40cm 掘り下げたところで水制の石積みを検出した。天端幅は 4m 程度と考えられるが、天端は平坦ではなく丸みをおびており、法面との境界があいまいである。水制の高さおよび基底部幅は不明。土層は上から表土、リニア残土（瓦礫主体）、旧表土（耕作土）が堆積しており、水制はリニア残土中に埋没していた。

C トレンチは B トレンチの北側で敷地の北端付近に、10m × 1m の規模で南北方向に設定した。地表から 40cm 掘り下げたところで水制の石積みを検出した。水制の一部に攪乱を受けている。C トレンチ内で水制の北端を検出することが出来なかつたため、水制はさらに北側に延びていると考えられる。土層は上から表土、リニア残土（瓦礫主体）が堆積しており、水制はリニア残土中に埋没していた。なお、遺物はどのトレンチからも出土しなかつた。

調査の結果、右岸 19 番堤の存在、位置、規模等を確認することができた。本堤は記録によれば「頭部 12.7m、幹部 147.5m で大正 2 年着工、翌 3 年完成」とされる（『登録有形文化財 勝沼堰堤』）。今回調査を行った A トレンチから C トレンチ北端までの距離は約 135m を測る。先端部分は敷地内から検出されていないため、全容の把握には至っていないが、ほぼ記録の通りの規模で築堤されたと判断される。日川側の水制先端部分は T 字状を呈しており、現在でもその痕跡がみられる堤もあるが、本堤の先端については現地観察のみでは見出すことができない。川沿いの道路建設に伴う護岸整備の結果、先端部の痕跡が消滅あるいは埋没してしまったと考えられる。なお、A トレンチで確認された水制の天端は、先端部分の存在が想定される道路面とほぼ同じ高さとなっており、水制先端が道路面の下に残存している可能性もある。

また、本堤は北端と南端で約 1.6m の高低差があり、日川に向かって低くなっており、旧来の地形は現況

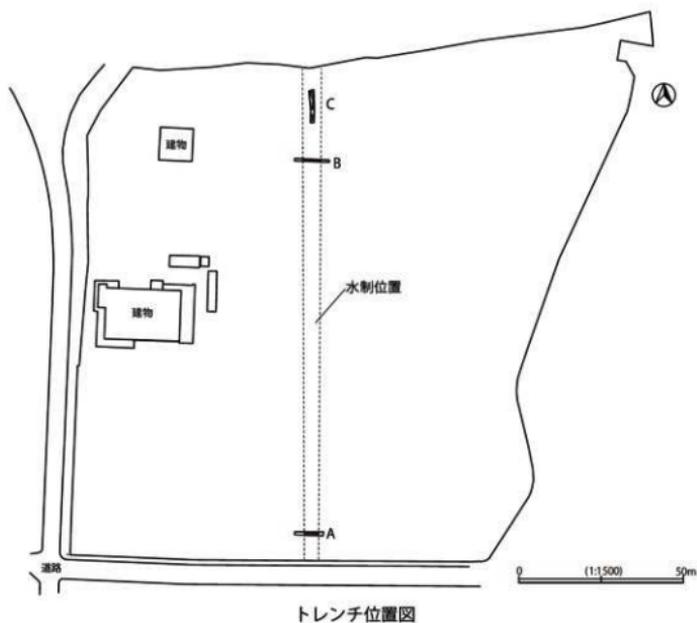
よりも傾斜していたことが分かる。このため、日川側の先端部分はリニア残土を盛土する以前にすでに埋没し、畑地として利用されていた。北側はリニア残土受け入れ以前まで天端が露出する状態であったと考えられる。

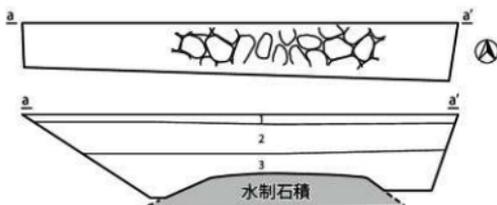
参考文献

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 234 集『登録有形文化財 勝沼堰堤』2006.3



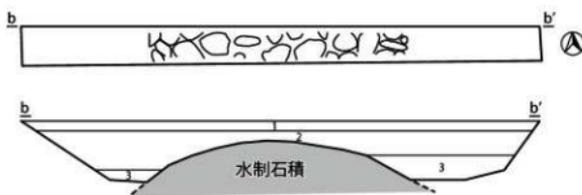
日川水制現況図 (『登録有形文化財 勝沼堰堤』より)





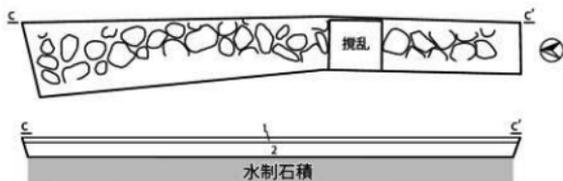
Aトレンチ土層

1. 灰黄褐色土 細かい礫を含む、表土
2. 灰白色礫 拳大～人頭大の割れた礫が主体、リニア残土
3. 黒褐色土 旧表土（耕作土）



Bトレンチ土層

1. 灰黄褐色土 細かい礫を含む、表土
2. 灰白色礫 拳大～人頭大の割れた礫が主体、リニア残土
3. 黒褐色土 旧表土（耕作土）



Cトレンチ土層

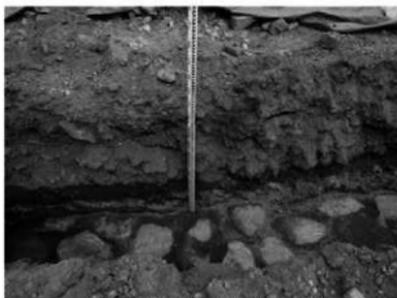
1. 灰黄褐色土 細かい礫を含む、表土
2. 灰白色礫 拳大～人頭大の割れた礫が主体、リニア残土

0 (1:100) 2m

A・B・Cトレンチ平面断面図



Aトレンチ水制検出状況（西から）



Aトレンチ土層断面（南から）



Bトレンチ水制検出状況（東から）



Bトレンチ土層断面（南から）



Cトレンチ水制検出状況（南から）



Cトレンチ土層断面（南西から）

3 横井・大木戸遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山下於曾字大木戸 306-1,310-1、熊野字横井 495-3,496-3
- (2) 調査面積 161.3㎡
- (3) 調査期間 平成 30 年 11 月 22 日～29 日
- (4) 調査原因 店舗等建設
- (5) 調査結果

当地は埋蔵文化財包蔵地である横井・大木戸遺跡（縄文・平安）の範囲に含まれており、敷地内に遺跡の存在が予想される地点である。このたび当地内に店舗用建物を建設する計画が立てられたため、遺跡の残存状況を確認するために試掘調査を実施することとし、開発の対象となっている敷地内に5か所のトレンチ(A～E)を設定した。

A トレンチは敷地の北側（下於曾 310-1）に 22.4 × 1.8m の規模で東西方向に設定した。地表から 40cm 掘り下げたところで地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構確認を行った。その結果、竪穴建物 2、土坑 2、溝 1、ピット（小穴）2 が検出された。

B トレンチは A トレンチの南側に 27.7m × 1.5m の規模で東西方向に設定した。地表から 50cm 掘り下げたところで地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構確認を行った。その結果、竪穴建物 5、土坑 4、ピット 4 が検出された。

C トレンチは敷地の東側（下於曾 306-1）に、18.1m × 1.5m の規模で南北方向に設定した。地表から 60cm 掘り下げたところで地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構確認を行った。その結果、竪穴建物 1、ピット 3 が検出された。

D トレンチは C トレンチの南側に、12.2m × 1.4m の規模で東西方向に設定した。地表から 60cm 掘り下げたところで地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構確認を行った。その結果、竪穴建物 2、ピット 1 が検出された。

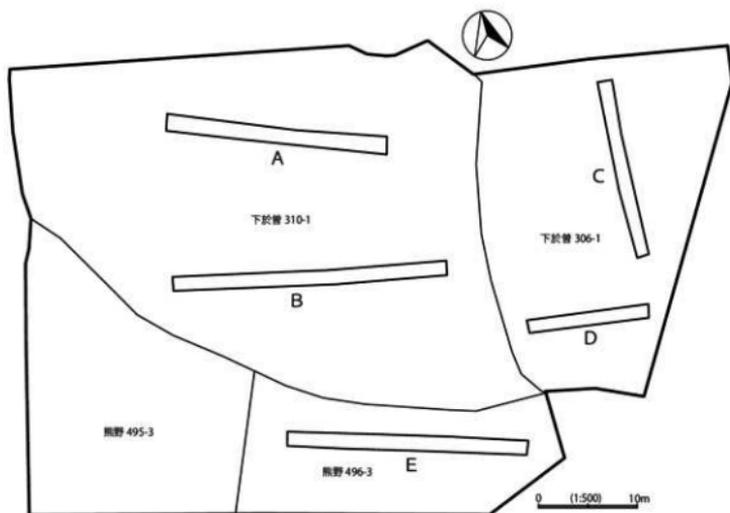
E トレンチは敷地の南側（熊野 496-3）に 24.3m × 1.4m の規模で東西方向に設定した。地表から 40cm 掘り下げたところで地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構確認を行った。その結果、ピット 2 が検出された。

いずれのトレンチからも平安時代と推定される土師器破片が検出されている。6点を図示した。

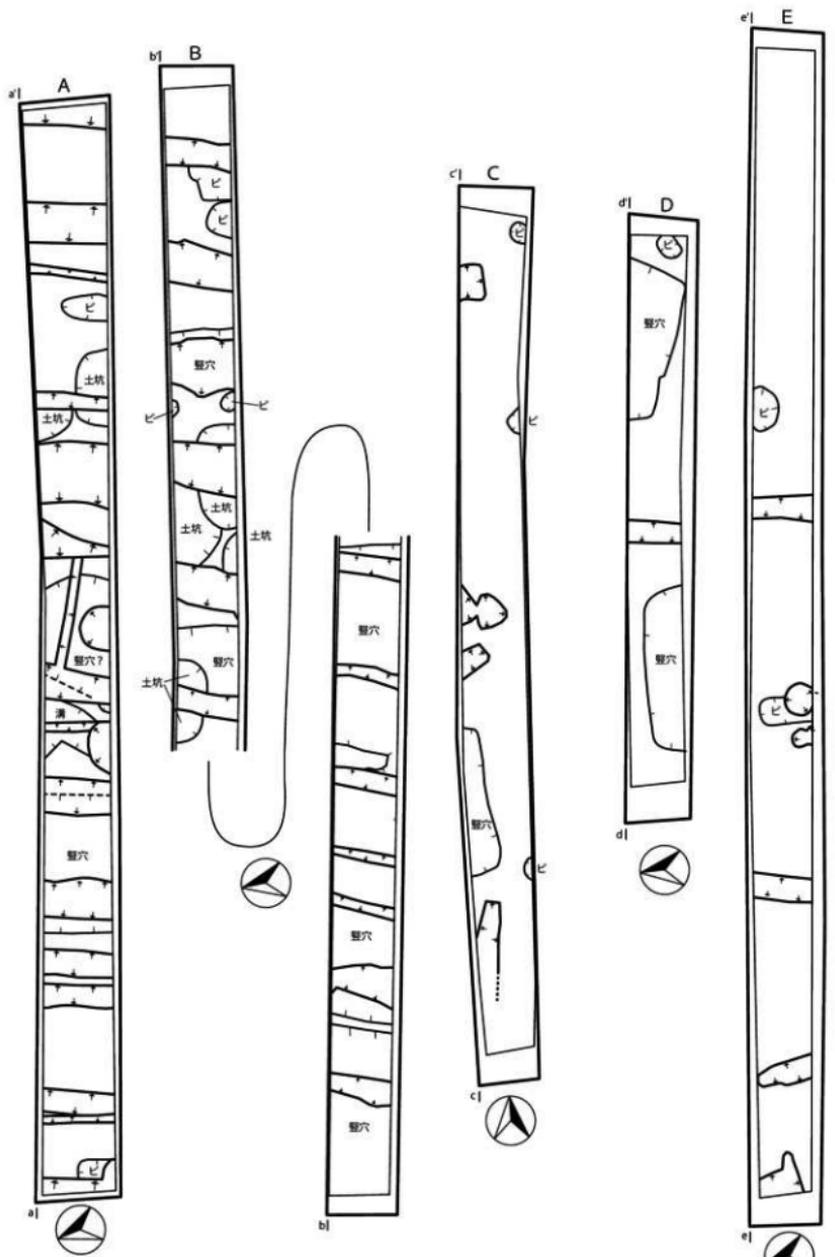
調査の結果、設定したすべてのトレンチから遺構が検出された。出土した遺物は平安時代の土師器が主体であることから、当地内は平安時代の集落跡の一部と考えられる。令和元年度に本調査を実施し、調査区約 1,200㎡から竪穴建物 9、竪穴状遺構 1、土坑・ピット 67、溝 7 が検出された。縄文・平安時代。令和 2 年度以降に報告書が刊行される予定である。



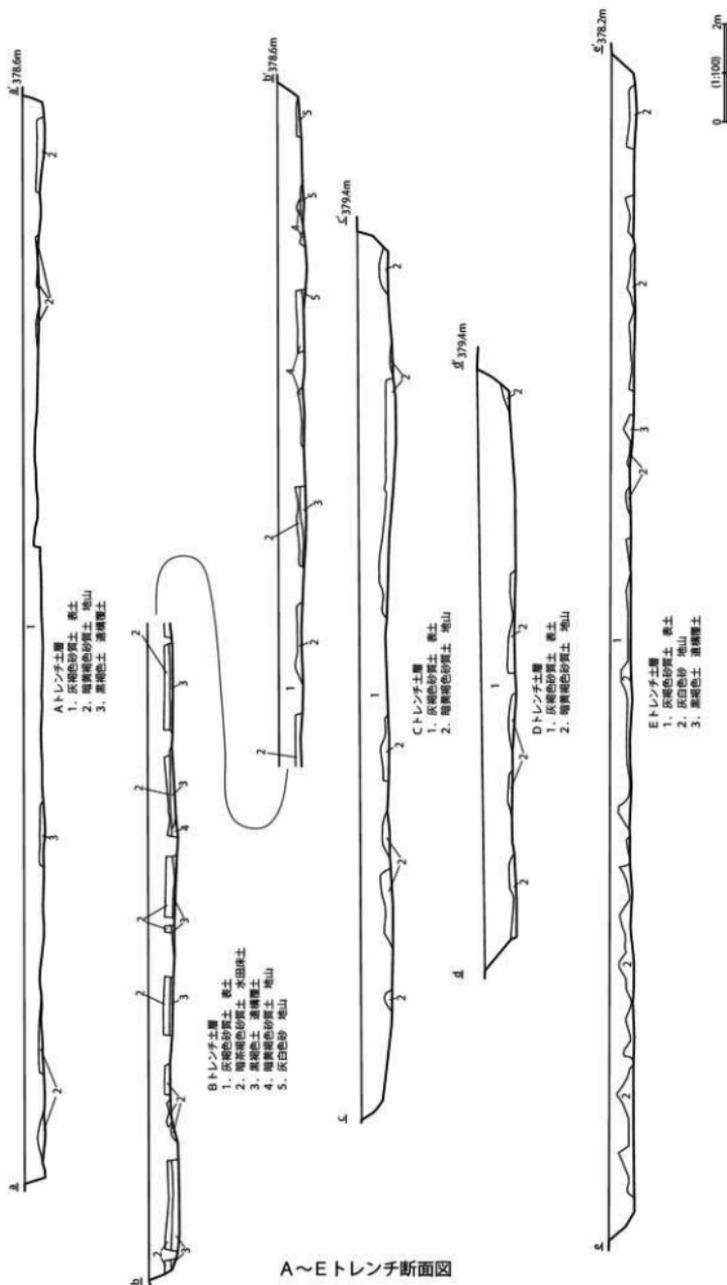
調査対象位置図



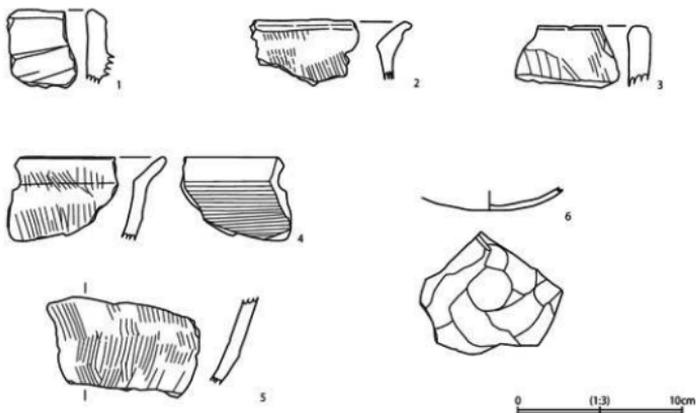
トレンチ配置図



A~Eトレンチ平面図



A～E トレンチ断面図



横井・大木戸遺跡土器観察表

番号	出土地点	種別	器種	法量 (cm)			残存	製作技法			胎土	含有物	色調		構成	注記
				口径	底径	高さ		内面	外面	底面			外・内	横径		
1	Aトレン字	土器	羽釜	-	-	-	口縁部	ハケメ、ナデ	ナデ	-	やや密	赤、白・黒粘土	暗赤褐色/暗赤褐色	良	大木戸Aトレ3	
2	Aトレン字	土器	壺	-	-	-	口縁部	ヘラナデ	ハケメ	-	やや密	赤、白・黒粘土	暗/暗褐色	良	大木戸Aトレ	
3	Cトレン字	土器	羽釜	-	-	-	口縁部	ヘラナデ	ハケメ	-	やや密	赤、白・黒粘土	暗赤褐色/暗赤褐色	良	大木戸Cトレ	
4	Cトレン字	土器	壺	-	-	-	口縁部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ	-	やや密	赤、白・黒粘土	暗褐色/暗褐色	良	大木戸Cトレ	
5	Aトレン字	土器	壺	-	-	-	口縁部	-	ハケメ	-	やや密	赤、白・黒粘土	暗褐色/暗褐色	良	大木戸Aトレ1	
6	Dトレン字	土器	皿・皿	-	2A	-	底面	ナデ	-	ヘラナズリ	密	赤・白・黒・赤色粘土	暗/暗褐色	良	大木戸Dトレ1	



Aトレンチ遺構確認状況（西から）



Aトレンチ土層断面（西から）



整穴建物検出状況（Aトレンチ・南から）



Bトレンチ土層断面（西から）



Bトレンチ遺構検出状況（西から）



Cトレンチ遺構検出状況（西から）



Cトレンチ土層断面（北から）



整穴建物検出状況（Cトレンチ・東から）



Dトレンチ土層断面（西から）



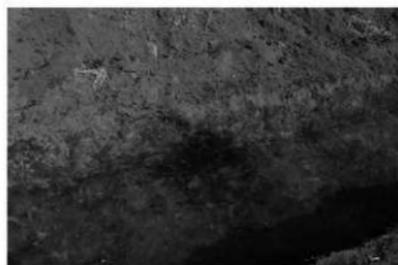
Dトレンチ遺構検出状況（西から）



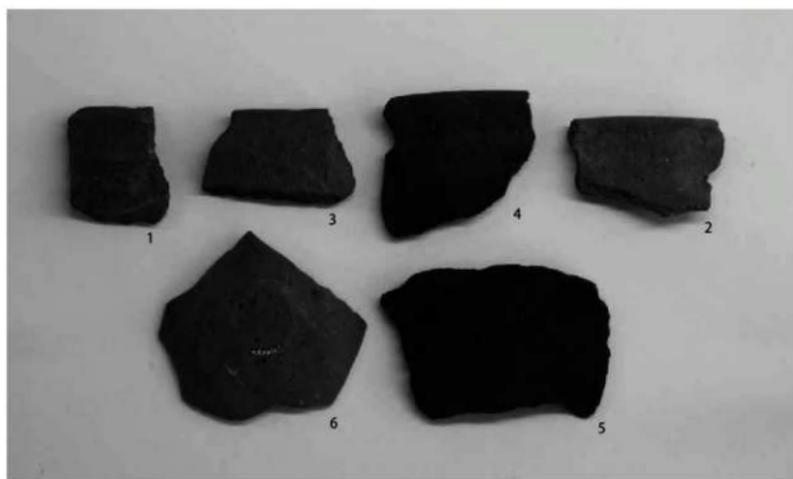
Eトレンチ遺構検出状況（西から）



Eトレンチ土層断面（西から）



ビット検出状況（Eトレンチ・南から）



出土遺物

4 池田遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山赤尾 1175・1176・1177・1178・1180 番地
- (2) 調査面積 54.5㎡
- (3) 調査期間 平成 30 年 12 月 14 日～18 日
- (4) 調査原因 宅地造成
- (5) 調査結果

当地は埋蔵文化財包蔵地である池田遺跡（中世）の範囲に含まれており、敷地内に遺跡の存在が予想される地点である。このたび当地内に宅地の分譲用地として造成工事を行うことが計画されたため、遺跡の残存状況を確認するために試掘調査を実施することとし、開発対象敷地内に3か所のトレンチ（A～C）を設定した。

A トレンチは敷地の北西側に長さ 8.7m × 幅 1.6m で設定した。地表から 60cm まで掘削したところ、しまりのある暗灰色粘質土が検出されたため、この面で遺構確認精査を行ったが、遺構は検出されなかった。下層の堆積状況を確認するため、一部、深掘りを実施したが、地表から 90cm のところで地下水が滲出したため、それより下層の確認を断念した。暗灰色粘質土の下層は粒径の大きい砂利層となっており、そこから地下水が滲出したものと思われる。

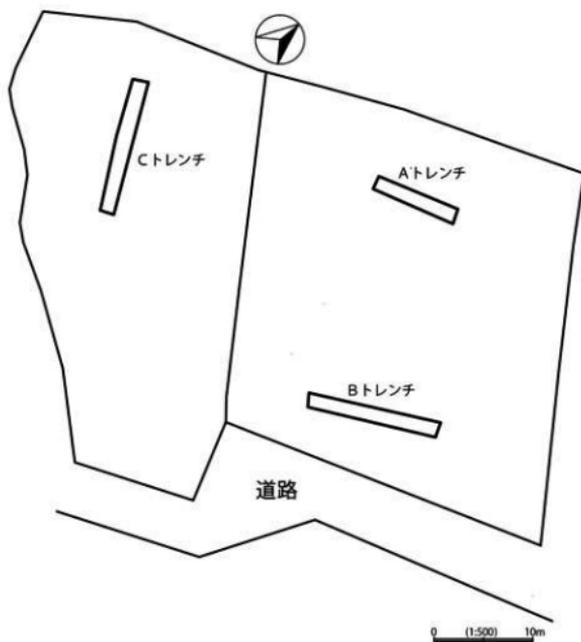
B トレンチは敷地の北東側に長さ 13.6m × 幅 1.6m で設定した。地表から 60cm まで掘削したところ、しまりのある暗灰色粘質土が検出されたため、この面で遺構確認精査を行ったが、遺構は検出されなかった。

C トレンチは敷地の南西側に長さ 13.6m × 幅 1.5m で設定した。地表から 70cm まで掘削したところ、しまりのある暗灰色粘質土が検出されたため、この面で遺構確認精査を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は土器・陶器の小片がわずかに検出されている。

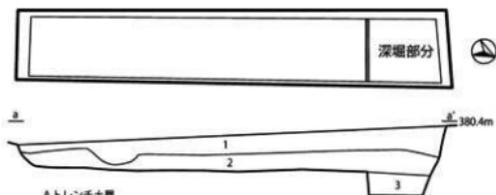
調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は検出されなかった。C トレンチからわずかに遺物の小片が検出されたが、表土から確認面までは大量の砂が堆積していることもあり、流れ込みと推定される。このため、当地内に遺跡は存在しないと考えられる。



調査地位置図

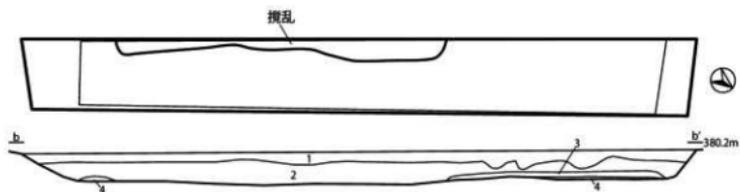


トレンチ配置図



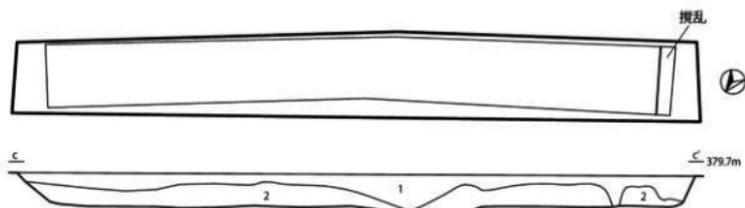
Aトレンチ土層

1. 灰黄褐色砂質土 表土
2. 灰白色砂 しまり・粘性弱
3. 灰色粘質土 しまり強、粘性あり。3層上面から20cm下から湧水する。



Bトレンチ土層

1. 灰黄褐色砂質土 表土
2. 灰白色砂 しまり・粘性弱
3. 灰色粘質土 しまり強、粘性あり。
4. 明黄褐色粘質土 しまり強、粘性あり。



Cトレンチ土層

1. 灰黄褐色砂質土 表土
2. 灰白色砂 しまり・粘性弱

0 (1:100) 2m

A～Cトレンチ平面図



Aトレンチ遺構確認状況 (南西から)



Aトレンチ土層断面 (南から)



Bトレンチ遺構確認状況 (南西から)



Bトレンチ土層断面 (東から)



Cトレンチ土層断面 (南東から)



Cトレンチ遺構確認状況 (北西から)

5 扇田B遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山下於曾字扇田 1486-1
- (2) 調査面積 8㎡
- (3) 調査期間 平成 31 年 1 月 17 日～ 30 日
- (4) 調査原因 集合住宅建設
- (5) 調査結果

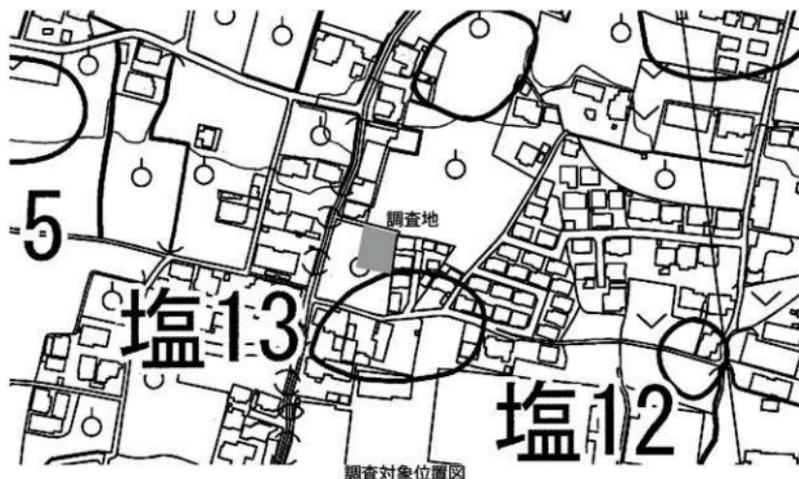
当地は埋蔵文化財包蔵地である扇田B遺跡（奈良・平安時代）に近く、敷地内に遺跡の存在が予想される地点である。このたび当地内に集合住宅の建設を行うことが計画されたため、遺跡の残存状況を確認するために試掘調査を実施することとし、開発対象敷地内に2か所のトレンチ（A・B）を設定した。

Aトレンチは敷地の南側に長さ2.0m×幅2.0mで設定した。地表から50cmまで掘削したところ、しまりのある黄褐色粘質土が検出されたため、この面で遺構確認精査を行った。その結果、溝状遺構1、小穴（ピット）2、縄文土器片を主体とする遺物群も検出された。

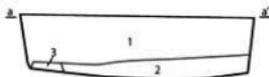
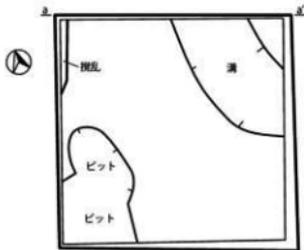
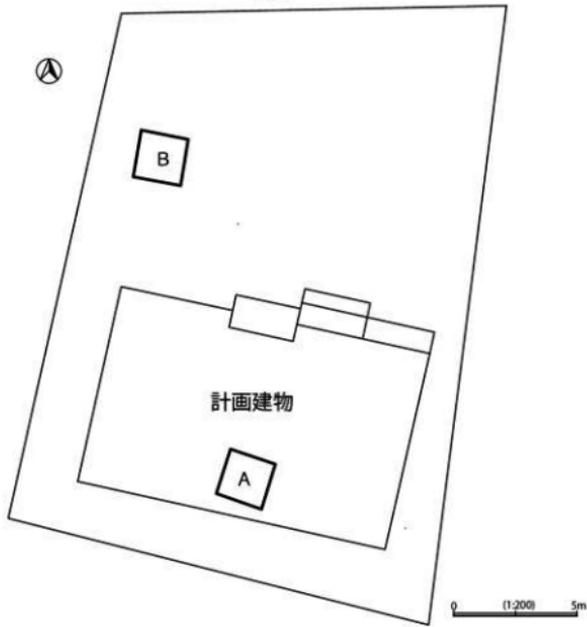
Bトレンチは敷地の北側に長さ2.0m×幅2.0mで設定した。地表から20cmまで掘削したところ、しまりのある黄褐色粘質土が検出されたため、この面で遺構確認精査を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は縄文土器片が少量検出されている。

調査の結果、敷地内南側のAトレンチから遺構・遺物が検出され、北側のBトレンチでは遺構はみられないが、遺物が確認された。当該地の南方は扇田B遺跡の包蔵範囲であるが、扇田B遺跡の範囲が現状より北側に広がることを示している。遺物は21点を図示した。

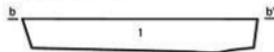
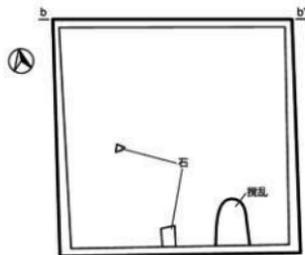
遺構・遺物が確認されたAトレンチ地点に建物の建設が予定されているが、盛土して遺構面に対する保護層が設けられるため、本調査の必要はない。



道路

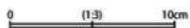
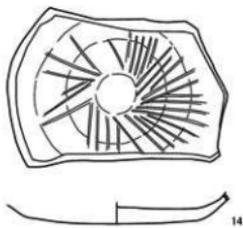
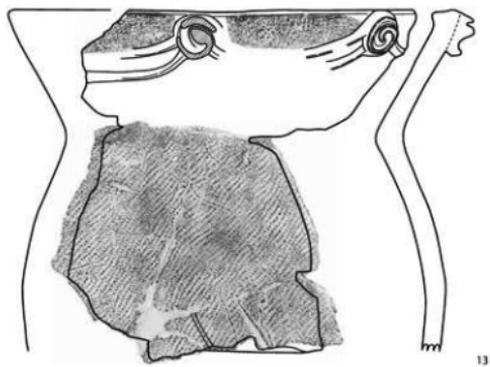
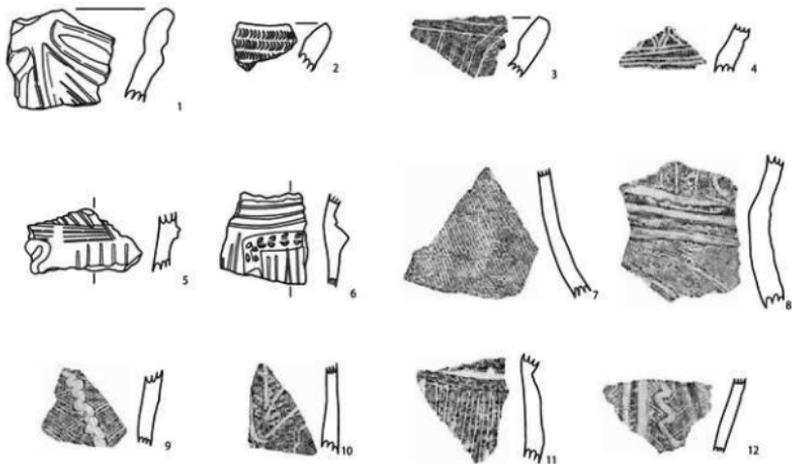


- Aトレンチ土層
 1. 暗褐色土 しまりあり 表土
 2. 暗褐色土 黄褐色粘質土混じる しまりやあり
 3. 黄褐色粘質土 しまりあり 地山

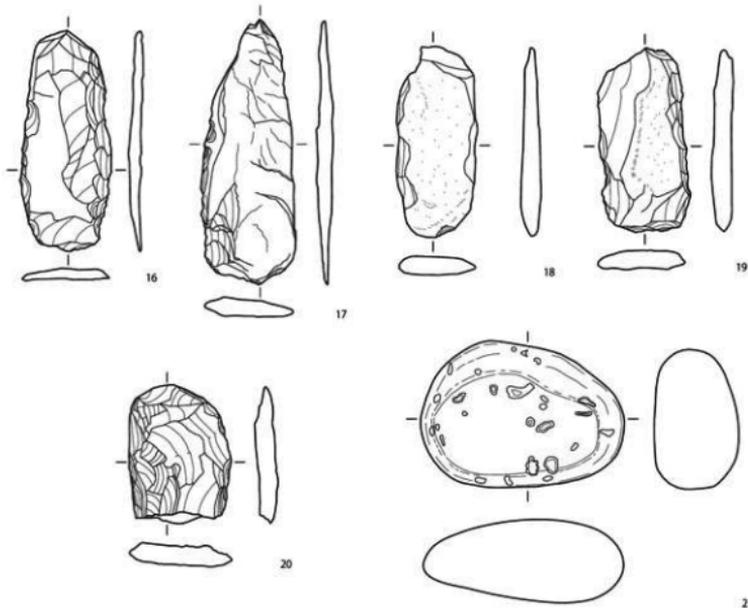


- Bトレンチ土層
 1. 暗褐色土 しまりあり 表土

0 (1:40) 1m



出土遺物 1



出土遺物 2

0 (1/3) 10cm

原田B遺跡土器観察表

番号	出土地点	種類	観察	法量 (cm)			残存	製作技法			胎土	含有物	色調		構成	注記
				口徑	口径	高さ		内面	外面	底部			外/内	内		
1	Aトレンチ	土器	深鉢	-	-	-	口縁部	ナデ	隆線、沈線	-	やや密	金、白	黒褐色/黒褐色	良	オウギB	
2	Aトレンチ	土器	深鉢	-	-	-	口縁部	ナデ	隆線の凹文	-	やや密	金、白	黒褐色/黒褐色	良	オウギBトレ	
3	Aトレンチ	土器	深鉢	-	-	-	口縁部	ナデ	沈線	-	密	金、白、黒	黒褐色/黒褐色	良	オウギB3	
4	Aトレンチ	土器	深鉢	-	-	-	胴部	ナデ	沈線	-	やや密	金、白、黒	黒褐色/黒褐色	良	オウギB	
5	Aトレンチ	土器	深鉢	-	-	-	胴部	ナデ	沈線、隆線	-	やや密	金、白	黒褐色/黒褐色	良	オウギB10	
6	Aトレンチ	土器	深鉢	-	-	-	胴部	ナデ	沈線、隆線、手取文	-	やや密	金、白	黒褐色/黒褐色	良	オウギB	
7	Bトレンチ	土器	深鉢	-	-	-	胴部	ナデ	隆文	-	やや密	金、白、黒	黒褐色/黒褐色	良	オウギBトレ	
8	Aトレンチ	土器	深鉢	-	-	-	胴部	ナデ	沈線	-	やや密	金、白、黒	黒褐色/黒褐色	良	オウギB	
9	Aトレンチ	土器	深鉢	-	-	-	胴部	ナデ	隆線、沈線、凹行沈線	-	やや密	金、白、黒	黒褐色/黒褐色	良	オウギB	
10	Aトレンチ	土器	深鉢	-	-	-	胴部	ナデ	沈線、隆文LR	-	やや密	金、白、黒	黒褐色/黒褐色	良	オウギB11	
11	Aトレンチ	土器	深鉢	-	-	-	胴部	ナデ	沈線、割取文	-	やや密	金、白、黒	黒褐色/黒褐色	良	オウギB6	
12	Aトレンチ	土器	深鉢	-	-	-	胴部	ナデ	沈線、隆線、凹行沈線、ハの字文	-	やや密	金、白、黒	黒褐色/黒褐色	良	オウギB1	
13	Aトレンチ	土器	深鉢	27.6	-	(21.0)	口縁-胴部	ナデ	隆線、凹行沈線、隆文LR	-	やや密	金、白、黒	黒褐色/黒褐色	良	オウギBトレ	
14	Aトレンチ	土器	鉢	-	103	-	底部	三方弁	三方弁	ヘラケズリ	密	金、白、黒、赤	黒褐色/黒褐色	良	オウギB	

原田B遺跡土製品観察表

番号	出土地点	品種	法量 (cm)			重量 (g)	残存	製作技法			胎土	含有物	色調		構成	注記
			最大長	最大幅	最大厚			内面	外面	底部			外/内	内		
15	Aトレンチ	土器	5.0	1.8	1.8	20	ほぼ球形	-	ナデ	-	やや密	金、白、黒	黒褐色/黒褐色	良	オウギB	

原田B遺跡石器観察表

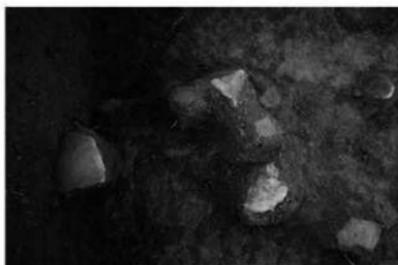
番号	出土地点	品種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	注記
			最大長	最大幅	最大厚			
16	Aトレンチ	打製石矛	13.5	5.4	0.7	80	粘板岩	オウギB
17	Aトレンチ	打製石矛	16.3	5.3	1.2	125	粘板岩	オウギB
18	Aトレンチ	打製石矛	11.7	4.7	1.1	100	砂岩	オウギB
19	Aトレンチ	打製石矛	11.3	5.3	1.2	110	粘板岩	オウギB
20	Aトレンチ	打製石矛	8.5	6.2	1.5	105	粘板岩	オウギB7
21	Aトレンチ	磨石	12.2	8.6	5.0	850	凝灰岩	オウギBトレ



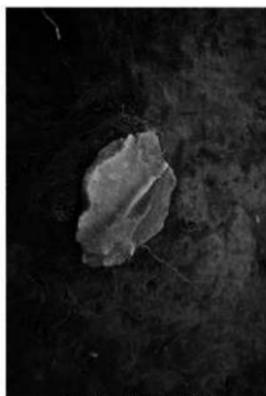
Aトレンチ遺構確認状況 (南から)



Aトレンチ土層断面 (南から)



Aトレンチ遺物出土状況①



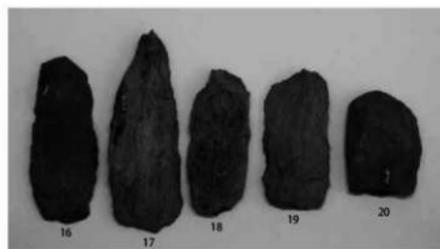
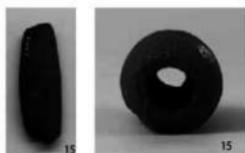
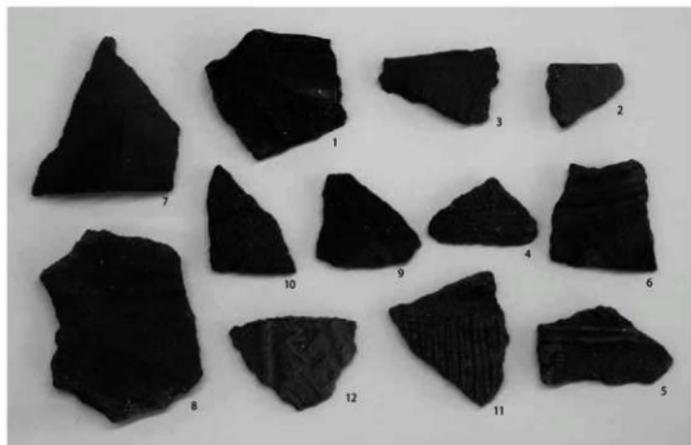
Aトレンチ遺物出土状況②



Bトレンチ遺構確認状況 (東から)



Bトレンチ土層断面 (南から)



出土遺物

6 比丘尼原 387 ほか

- (1) 所在地 甲州市塩山下塩後字比丘尼原 387,388-1
- (2) 調査面積 12.5㎡
- (3) 調査期間 平成 31 年 2 月 6 日～ 8 日
- (4) 調査原因 病院施設
- (5) 調査結果

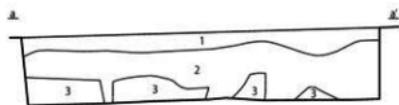
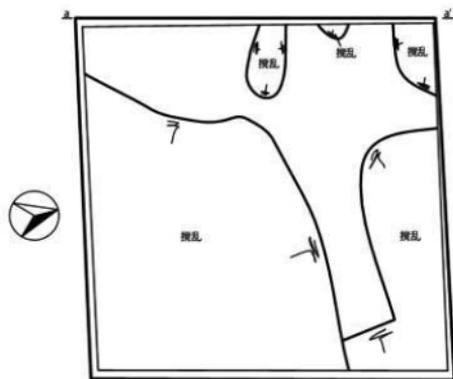
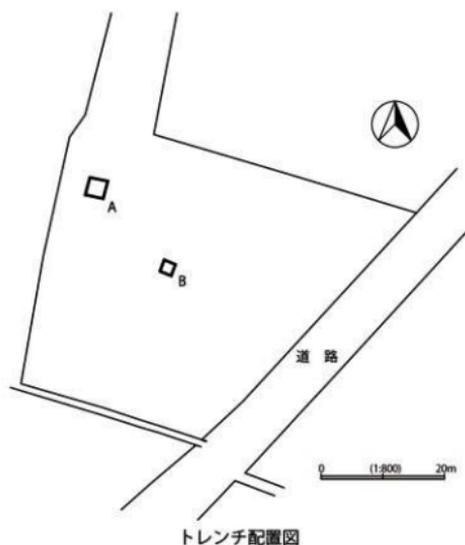
当地は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれていないが、病院関連施設の建設を行うことが計画されたため、遺跡の有無を確認するための試掘調査を実施することとし、対象敷地内に 2 か所のトレンチ（A・B）を設定した。

A トレンチは約 3m × 3m で設定し、地表下 50 ～ 60cm まで掘り下げたところ、遺構検出面となる暗黄褐色土層に至ったため、この面で遺構検出作業を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は表土中から土器、陶器、磁器小片が微量検出された。

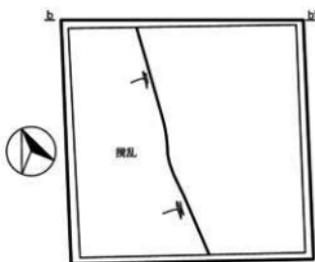
B トレンチは約 2m × 2m で設定し、地表下 30 ～ 40cm まで掘り下げたところ、遺構検出面となる暗黄褐色土層に至ったため、この面で遺構検出作業を行ったが、遺構、遺物とも検出されなかった。

当地は周知の包蔵地に含まれておらず、調査の結果、遺構は検出されなかった。A トレンチの表土中からわずかに遺物が検出されたが、遺構等に伴うものではなく、流入したものと考えられる。このような状況から、当地内に遺跡は存在しないと考えられる。





- Aトレンチ土層
1. 黒褐色土 しまり、粘性あり、表土
 2. 暗褐色土 しまり、粘性あり。
 3. 暗黄褐色土 しまり強、粘性あり、地山



- Bトレンチ土層
1. 暗褐色土 しまり、粘性あり、表土
 2. 茶褐色土 しまりやや強、粘性あり。水田岸土か
 3. 暗褐色土 しまりやや強、粘性あり。
 4. 暗茶褐色土 3層に似る。
 5. 暗黄褐色土 しまり強、粘性ややあり、地山

0 (1:40) 1m

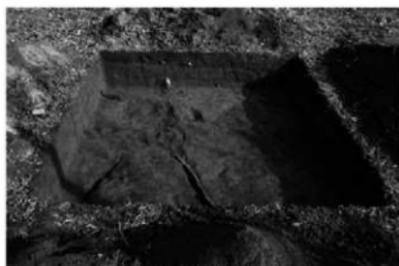
A・Bトレンチ平断面図



Aトレンチ遺構確認状況（東から）



Aトレンチ土層断面（東から）



Bトレンチ遺構確認状況（南から）



Bトレンチ土層断面（南から）

7 下整田遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山熊野字八王子 1048 番 1
- (2) 調査面積 13.7㎡
- (3) 調査期間 平成 31 年 2 月 19 日～ 28 日
- (4) 調査原因 個人住宅建設
- (5) 調査結果

当地は埋蔵文化財包蔵地である下整田遺跡（縄文時代）の範囲内で、敷地内に遺跡の存在が予想される地点である。このたび個人住宅の建設を行うことが計画されたため、遺跡の残存状況を確認するために試掘調査を実施することとし、開発対象敷地内に 2 か所のトレンチ（A・B）を設定した。

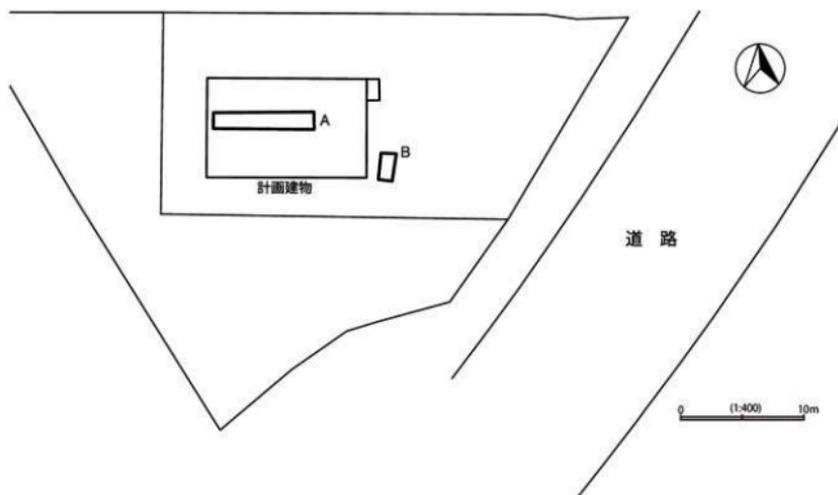
A トレンチは計画建物の範囲内に 6.85 × 1.1m で設定し、基礎の深さである地表下 40cm まで掘り下げ、遺構検出作業を行ったが遺構は検出されなかった。

B トレンチは計画建物の範囲外に 1.9m × 1m で設定し、地表下 70 ～ 80cm まで掘り下げ、A トレンチの遺構検出面とした土層より下の下層を確認し、その面で遺構検出作業を行ったが遺構は検出されなかった。遺物は A・B トレンチ両方から土器片が微量検出されているが、摩耗しており時期は不明である。

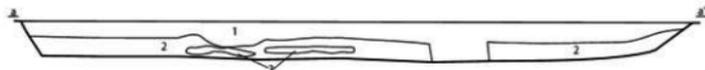
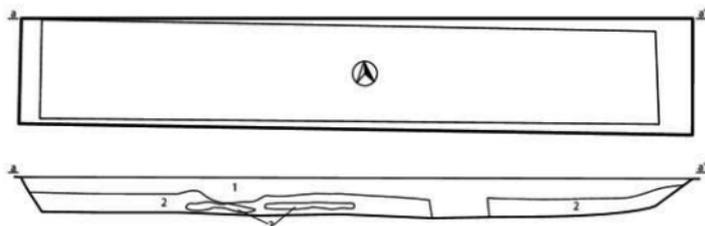
調査の結果、遺構は検出されておらず、わずかに出土した遺物も量も少なく摩耗していることから周辺からの流入と考えられる。このため、当地内に遺跡は存在しないと考えられる。



調査対象位置図

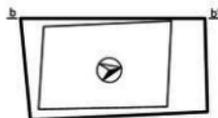


トレンチ配置図



Aトレンチ土層

1. 暗灰色砂質土 しまりあり、粘性弱。
2. 黄灰色砂質土 しまりあり、粘性弱。
3. 明黄褐色砂 しまりややあり、粘性弱、ブロック。



Bトレンチ土層

1. 暗灰色砂質土 しまりあり、粘性弱。
2. 明黄褐色砂 しまりややあり、粘性弱。
3. 黄灰色砂質土 しまりあり、粘性弱。
4. 黒色砂質土 しまりやや強い、粘性ややあり。
5. 灰白色砂 しまりあり、粘性弱、地山。

0 (1:50) 1m

A・Bトレンチ平面断面図



Aトレンチ遺構確認状況（西から）



Aトレンチ土層断面（南西から）



Bトレンチ遺構確認状況（北から）



Bトレンチ土層断面（東から）

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ
書名	平成30年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第30集
編著者名	入江俊行
編集機関	甲州市教育委員会
所在地	〒404-8501 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1 電話 0553-32-5076
発行年月日	令和2年3月27日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
中道遺跡	甲州市塩山熊野字 殿尻 152-1	19213	塩 22	35° 69′ 06″	138° 72′ 50″	平成30年 5月17日 ～21日	15.2㎡	消防施設
日川水制	甲州市勝沼町勝沼字 三輪窪 2830-1	19213	なし	35° 66′ 19″	138° 72′ 40″	平成30年 8月6日 ～31日	29.2㎡	確認調査
横井・大木戸遺跡	甲州市塩山下於曾字 大木戸 306-1 他	19213	塩 33	35° 69′ 43″	138° 73′ 19″	平成30年 11月22日 ～29日	161.3㎡	店舗建設
池田遺跡	甲州市塩山赤尾字 池田 1175 他	19213	塩 34	35° 69′ 48″	138° 73′ 52″	平成30年 12月14日 ～18日	54.5㎡	宅地造成
扇田B遺跡	甲州市塩山下於曾字 扇田 1486-1	19213	塩 13	35° 69′ 70″	138° 72′ 06″	平成31年 1月17日 ～30日	8㎡	集合住宅
比丘尼原 387 ほか	甲州市塩山下塩後字 比丘尼原 387 ほか	19213	なし	35° 69′ 46″	138° 71′ 31″	平成31年 2月6日 ～8日	12.5㎡	病院施設
下盤田遺跡	甲州市塩山熊野字 八王子 1048-1	19213	塩 9	35° 68′ 95″	138° 72′ 86″	平成31年 2月19日 ～28日	13.7㎡	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中道遺跡	散布地	平安	なし	なし	なし
日川水制	水制群	近代	水制石積	なし	日川右岸 19 番堤と推定
横井・大木戸遺跡	集落跡	平安	竪穴、土坑、ピット	土師器	令和元年度に 本調査
池田遺跡	散布地	中世	なし	土器・陶器小片	なし
扇田 B 遺跡	散布地	平安	ピット、溝	縄文土器、土師器	なし
比丘尼原 387 他	包蔵地外	—	なし	土器・陶器・磁器小片	なし
下整田遺跡	散布地	縄文	なし	土器小片	なし

山梨県甲州市

平成 30 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書

2 0 2 0

発行 甲州市教育委員会

住所 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1

電話 0553-32-5076

発行日 令和 2 年 3 月 27 日

印刷 株式会社 峽南堂印刷所

